

2020年6月25日

日本イーライリリー株式会社
〒651-0086
神戸市中央区磯上通 5-1-28
www.lilly.co.jp

EL20-30

本プレスリリースは、米国イーライリリーが6月13日(米国現地時間)に発表したプレスリリースを日本語に翻訳・編集したもので、内容および解釈については原本である英語が優先されます。なお、デュラグルチドの適応症は2型糖尿病であり、本邦におけるデュラグルチドの承認用量は0.75mg 週1回投与のため、本試験の内容は承認用量外です。また、日本の法規制などの観点から一部、削除、改変または追記している部分があります。

トルリシティ® (デュラグルチド)、 週1回投与のセマグルチドおよびエキセナチドと比較し 有意に高い服薬アドヒアランスと継続性を示す

2020年6月13日 インディアナポリス発—トルリシティ®(一般名:デュラグルチド)は、GLP-1受容体作動薬の治療を新たに始めた2型糖尿病患者における新しいリアルワールドデータから、週1回投与のセマグルチドまたはエキセナチド(徐放製剤)に対し、有意に高い服薬アドヒアランスと長い継続性を示しました¹。イーライリリー・アンド・カンパニー(以下、リリー)(NYSE: LLY)は今回のデータを第80回米国糖尿病学会学術集会にて公表しました。

服薬アドヒアランスおよび継続性を比較した今回の実臨床研究では、週1回投与製剤であるトルリシティ®、セマグルチドまたはエキセナチドによる治療を始めた2型糖尿病患者の米国レセプト情報を用いて検討されました。対照群は年齢、性別、糖尿病合併症重症度指数(aDCSI)、合併症などの特性についてバランスが取れていました。

トルリシティ®群は、6カ月時点において、セマグルチド群またはエキセナチド群に比べ、高い服薬アドヒアランスと継続性を示しました。さらに、トルリシティ®群の治療中止患者数は、セマグルチド群またはエキセナチド群と比較し、有意に少ないことが示されました。

トルリシティ® 対 セマグルチド(週1回投与):

- 服薬アドヒアランス*: 59.7% (トルリシティ®) 対 42.7% (セマグルチド)
- 継続性: 143.6日(トルリシティ®) 対 122.9日 (セマグルチド)
- 治療中止率: 30.8% (トルリシティ®) 対 40.8% (セマグルチド)

トルリシティ® 対 エキセナチド(週1回投与):

- 服薬アドヒアランス*: 58.1% (トルリシティ®) 対 40.3% (エキセナチド)
- 継続性: 142日 (トルリシティ®) 対 121.4日 (エキセナチド)
- 治療中止率: 32.1% (トルリシティ®) 対 49.4% (エキセナチド)

*服薬アドヒアランス:6カ月間で8割以上投与ができていない患者の割合

リリーでメディカルアフェアーズのバイスプレジデントであるLeonard Glass医学博士は次のように述べています。「2型糖尿病は進行性の身体疾患であり、実臨床研究は患者さんの状態と治療に関してさらに理解を深めるために非常に重要です。今回の実臨床研究は、週1回投与であるトルリシティ®のシンプルな治療価値を裏付け、糖尿病患者さんの治療経験だけでなく、アウトカムに対し、長期的な影響をもたらす可能性を示唆しました」。

¹ Mody R, Yu M, et. al. Dulaglutide has Higher Adherence and Persistence than Semaglutide and Exenatide QW: 6-month Follow-up from US Real-World Data. Abstract 928-P. Presented virtually at the 80th American Diabetes Association Scientific Sessions; June 12-16.

服薬アドヒアランスと継続性に関する試験について

HealthCore Integrated Re-search Database (HIRD[®]) の2017年8月から2019年6月までの米国レセプト情報を用いた後ろ向き実臨床観察研究です。主要目的は、新たに週1回投与のGLP-1受容体作動薬を始める2型糖尿病患者における6か月間の服薬アドヒアランスと継続性を、トルリシティ[®] (1.5mgおよび0.75mg) 群とセマグルチド (1.5mgおよび0.25または0.5mg) 群およびエキセナチド群で比較することです。薬剤の継続性はカプランマイヤー曲線とコックス比例ハザード分析を用いて検討されました。トルリシティ[®] 群はセマグルチド群 (3,852ペア) またはエキセナチド群 (1,879ペア) に対し、傾向スコアが1:1で一致しており、対照群はベースライン特性においてバランスが取れていました。また、患者背景を適合させた対照群は18歳以上で、ベースラインの年齢、性別、aDCSIスコア、合併症などの特徴が一致していました。本試験はイーライリリー・アンド・カンパニーの資金により実施されました。

イーライリリー・アンド・カンパニーについて

イーライリリーは、世界中の人々の生活をより良いものにするためにケアと創薬を結び付けるヘルスケアにおける世界的なリーダーです。イーライリリーは、1世紀以上前に、真のニーズを満たす高品質の医薬品を創造することに全力を尽くした1人の男性によって設立され、今日でもすべての業務においてその使命に忠実であり続けています。世界中で、イーライリリーの従業員は、それを必要とする人々の人生を変えるような医薬品を開発し届けるため、病気についての理解と管理を向上させるため、そして慈善活動とボランティア活動を通じて地域社会に利益を還元するために働いています。詳細はウェブサイトをご覧ください。 www.lilly.com および www.lilly.com/newsroom/social-channels.

イーライリリー・アンド・カンパニーの糖尿病事業について

イーライリリー・アンド・カンパニーは1923年に世界で初めてインスリン製剤を開発して以来、糖尿病ケアの分野において常に世界をリードしてきました。現在も、糖尿病をもつ人々やケアを行う人々の様々なニーズに応えることで、この伝統を築いています。研究開発や事業提携、拡大し続ける幅広い医薬品ポートフォリオ、そして、医薬品からサポートプログラムをはじめとする実質的なソリューションを提供し続けることを通じて、世界中の糖尿病をもつ人々の生活の改善に努めます。詳細はウェブサイトをご覧ください。

<https://www.lillydiabetes.com/>

日本イーライリリーについて

日本イーライリリー株式会社は、米国イーライリリー・アンド・カンパニーの日本法人です。人々がより長く、より健康で、充実した生活を実現できるよう、革新的な医薬品の開発・製造・輸入・販売を通じ、がん、糖尿病、筋骨格系疾患、中枢神経系疾患、自己免疫疾患、成長障害、疼痛、などの領域で日本の医療に貢献しています。詳細はウェブサイトをご覧ください。 <https://www.lilly.co.jp>

This press release contains forward-looking statements (as that term is defined in the Private Securities Litigation Reform Act of 1995) about Trulicity as a treatment for people with type 2 diabetes and reflects Lilly's current belief. However, as with any pharmaceutical product, there are substantial risks and uncertainties in the process of development and commercialization. Among other things, there can be no guarantee that future study results will be consistent with the results to date or that Trulicity will continue to be commercially successful. For further discussion of these and other risks and uncertainties, see Lilly's most recent Form 10-K and Form 10-Q filings with the United States Securities and Exchange Commission. Except as required by law, Lilly undertakes no duty to update forward-looking statements to reflect events after the date of this release.

###